ワークシート・資料編

1 授業プリント②

国際秩序の変化や大衆化と日本

4、日本のアジア進出



軍の行動を 政府はなぜ止められなかったのか ...

・中国統一の進行と日本

※1911年 革命勢力が(,清)を打倒 → 1912年(2中華民国)建国

【かり 政局は安定せず、各地で軍の実力者(。軍閥)による分立麺己がファンペーン中国国民党の指導者(+ 蔣介石)が、1926年内ら統一のための(。北伐) 開始……各地の軍閥,中国共産党(指導者・毛沢東)なびと対立

(日本の対応)、、日露戦争で得た(。 南満州鉄道)などの満洲の権益をどう守るか、
→ 政府は満洲の軍閥(、張作霖)との接近、交渉を図るが、

満洲的日本軍(8関東軍)は、実力で満洲を奪かうとする。

191928年、独断で(g張作霖)を爆殺→息子、張学良は日本を警戒し、蔣介石の国民党に合流

....日本政府は関係者をきびく別からおとあるが、軍部の反対で不力に

・満洲事変

1931年: 大卵条湖事件…(原関東軍)の一部が満鉄を爆破

→中国軍のしわざとし、満洲の全域を占領(『満州事変) 1932年 関東軍は清朝最後の皇帝を元道にすえ、(『満州国)を建国

(中国の対応) 事変を武力行使をして、 跡を(品 国際連盟)に提訴

1933年:国連の調査団は、満洲の日本権益は認めるも、満洲国」は認めず

→日本軍捕退の国連勧告に対し、日本は("国際連盟を脱退

・軍部の台頭

※恐慌や満洲をめる動きを背景に、軍の若(青年将校)らの間で、軍中心の政治をかざ動き トラ 工業部門では財政出動で回復、成長にお、財閥の肥大化、農業不泥などの問題も 1930年11月 浜口雄幸首相 狙撃事件 →のち死亡

1932年2.3月 血盟団事件… 三井財閥の代表などが暗殺される

1932年5月15日(15 五・一五事件)…海軍持校が 犬養毅首相を射殺

1936年2月26日(_{16.} 二・二六事件)… 陸軍の内部対立から一部の派閥がクーデタを決行
→ 政府の要人 3名を殺害 → 天皇が東京に戒厳令 → 4日後 鎮圧

※テロの恐怖の中、軍部の政治介入かずすんでいくことに

問、恐慌を背景に広がる社会不安の中、政治はどのように変化していったか。そして、その変化に 対して、国民はどう考えただろうか。考察しょう。

(予想される解答例)※「B」とする解答の例

政府が話し合って決める政治が、軍の統帥権を振りかざした、勝手な政治に変化していった。政府はテロなどを恐れ、それを止めることができなかった。民衆の政府に対する不信感は強まり、国民は軍が自分たちのことを一番考えてくれると思うようになった。二・二六事件でも軍の別の派閥がそれを抑えたので、国民はさらに軍を信用した。 (添削例)

・恐慌に対する政府の対応、国民の不満、軍が国民を扇動したことなど、指摘したい。 →とくに農業不況に対して政府は有効な手段がとれず、農村を中心に軍への支持が拡大

【写真】

蔣介石

【写真】

毛沢東

【資料】

せいんうい

【写真】

溥儀

ラストエンハッラー

という映画に

・石原莞爾の「満蒙問題」に関わる主張

【資料】

満州国における 自動車生産の様子 を示す写真

【資料】

・都道府県別に 満州への移民の 人数を示す 地図(主題図)

【資料】

二・二六事件で掲げられた 軍への回帰を促すバルーン の写真

【資料】

・浜口内閣を非難する 労働組合のポスター

2. ワークシート②

国際秩序の変化や大衆化を日本

4.日本のアジア進出(2)

問、なぜ満州事変は引き起こされたのか。そして、日本はなぜ連盟を脱退にのかし。

(キーポイント「政府の視点」「国民の視点」「国際社会の視点」)

- ① プツント ⑩ モもとに、まずは Í分で考えてみる. ̄ (予想される解答例)
 - ・軍の暴走を政府は止められなかったから。
 - ・不況を克服するための軍事行動を国民が支持したから。
 - ・連盟に入っていると自分たちの思うように領土を奪えないから。

②各エキスパート到王の内容をまとめ、シウツー・到王で問いにかいるある

A(予想される解答例)

- ・満州は国民の命、中国人はそれを奪おうとしている、危険
- ・満州があれば米に勝てる
- ・国民は軍を信じる
- ・国民は中国人を悪い人だと思い込み,軍に対し信頼感を持っている。
- ・多くの人が満州への武力行使 を容認している。

B(予想される解答例)

- ・一番大事なのは、戦争回避。
- ・日本に大人しくしてほしい。
- ・建前上,路線爆破=中国側の 行動。日本の自衛権は×
- ・満州国は自発的な国ではない ので認めない。自治なら○
- ・日本の満州権益は守られなけ ればいけない
- ・日本は怪しいが、日本は交渉 のテーブルにのせるべき。
- ・国民に真実を知らせるべき。

(予想される解答例)

- ・満州での日本の立場は、強くないと考えていた。
- ・満州に積極的にお金を出して いく必要がある。
- ・政府は英米の非難と軍のクー デターの両方を恐れた。
- ・松岡は事態に対し悲観的,内 田は楽観的だった。
- ・連盟規約に反してしまったことに気付いても、軍が怖くて後 に引けなく成ってしまった。

③ 問いについて、最終的な自分の結論をまとめる

(予想される解答例)

→後述「4 評価問題に対する予想される解答例」を参照

評価規準 (悶,判断,表現) と 評価

A、満州問題について、キーポタントのろつの視点をすがてふまえて記述できている。

B...満州問題にかて、キーがかりうち2つの視点をふまえた記述ができている。

C...満州問題について、複数の視点から考察した記述ができていない。

コメント構

&満州事宴:エキスパート課題A

番 氏名

|軍や政府は、「満川問題を国民にどう伝え、国民は何も考えたか

(a) 満州事変前に、軍や政府が固民に訴えてこと(その1)

F20億の資財と20万の生霊(死者)によて獲得された満州の権益を守るのだら日露戦争发 のロシア、中国との条約で、国際的にも日本の満川における特別な確利は認められている。なのに 中国は無視し、勝利に鉄道を敷いたり、各地で気日ボインットもしている。今満川にいる日本人も危険だい。 (长1930年代~不凡对策心满州移民增加) 軍人





国民よ、英朱にだまされるな、日露戦争での多くの犠牲により、勝ちとった満川の 権益を、中国はポイコットで拒否し、英米はこれに加担しようとしている。世界的不況 のら、英米は協調移気などない。我2のかで、不沢を打開しよう!!!

A.(予想される解答例)

- ・多くの犠牲、莫大な財産を投じた満州を、中国から守らなければならない
- ・中国人は危険。満州を中国にとられると、日本は不況から抜け出せない。

(ボツル)、20年以上前の「日露戦争」を引き合いに出すことで、軍は国民をどのような気持ちにさせたかったのか

(b)満州事変前に、軍や政府が国民に訴えたこと(その2)

【写直】 松岡洋右 満州は、経済上、国防上、秋が日本の「生命線」である。そに、今、我が国民が 要求することは、「生物としての最小限度の生存権」である。 (1930年12月、英米協調派への批判演説として)

【写真】 石原莞爾

将来、アメリカをの戦争があこるとして、必ずが力戦になるたづう。 今のまま英米と協調しても、日本は勝てない。資源や食料が豊富な 満川を日本のものにできれば、アメリカと戦うことかの可能になるだろう。 事変が、中国のしりざいションは国民も信じるし、軍を支持移はずだ。

´A(予想される解答例)

- ・満州を守らないと、日本国民の生存を保障できない。
- ・近い将来アメリカと総力戦と成った場合、満州があれば勝てる。
- ・中国のボイコットなどから、事変が中国の仕業ということに国民は疑問をもたない。 (ポケト) 不況の中で、政府や軍は、国民にどのおうに危機感」をおよせ、満州の必事性を新えたか
- (C) 満州事要の前後に、国民が考えたこと



支那(中国)の悪い兵隊は日本人を満州内ら追い出そうとして、ひどい目に合めせるとは、 なんという出異な人達でしょう。この大切な満州を、大和魂でかたまった強い強い 兵隊さん、どうでしかり中、て下さい。(大津市、小学校五年生、男子)

※東京帝国大学の学生へのアガート結果(1931年の|| 鞍前と|| 撃後に|| 陸軍が実施)−

- ①(較前)「満州のための武力行使は正当か?」→「はい」の回答が88%を占める。
- ② (藝後)「君たちは満州を日本の生命線とみなすが、」 ~ しはい」の回答かい90%をもめる 「満州問題は武力で解決されるべきか?」

A.(予想される解答例)

- ・国民は、中国人を悪い人間だと思っている。
- ・国民は軍に対して信頼感を持っている。
- ・東大生をはじめ優秀な人物も、満州での武力行使をよしとしている。

· (おタント)、国民は、真実とすべて知らない中で、軍や政府の主張を どのようにうけとめたわし、

&満州事変:エキスパート課題B

納 番 氏名

国際社会は、「満州問題」をどのおにとらえていたか、

(a) 「満川撃」を調査したリットンが言いたかったことは何か、

【写真】 リットン 日本の行動は明らかに不法だし、満州国を認めるかけにはいかない。
しかし、ここでは「関東軍のしいざ」ということは問題にせず、日本と中国を妥協させて、
両国の戦争を逃げたい。日本が満州に持っている権益は保障ならう配慮しよう。

A, (予想される解答例)

- ・満州国はだめだけど、一番大事なのは、日中の戦争を避けることだ。
- ・日本の持っている満州権益は保障するから、日本に大人しくしてほしい。

「(ボイント)・リットンは、海川事変ももの後の日本の行動をどうとらえたかし

- ・ リルトンが最も警戒したことは何で、そのために、日本にどのような姿勢を見せたか
- (b) リットンは、どのおな案を提示し、日本かどのように動くことを期待したか、

リットン調査国の報告と連盟の提案(1932年10月)

- ①満州事後以降の日本の軍事行動は、路線爆破や反日ボイコットなど中国側の動きに対する、日本の自衛行動とは認められない。
- ② 滿州国」は、満州の久が 蔣介石政府以5独立に建国して、自発的な国ではない。
- ③ 事変より前から日本が満州に持っていて利益は、守られなければいけない。
- ④中国の主権のもと、満州の自治を認め、日本は自治政府のアドバイザーになってはどうか。
- ⑤中国のホイコットは、蔣介石政府の影響で行われている。禁止すべきた。 以上のおうな提案のもと、日中両国は誇し合いて、和解すべきた。日本は満州貿易の利益(5000万)と中国貿易全体の利益(10億)をてんびんにかけて、考えてほどうか。

メリットンの本音

- 、「満州国は、あきらかにうさんない。でも、日本を交渉の場から退出せてはい佐い、(相の紙)
- ・日本の人々は、言論弾圧や、テロ事件で、真実を知らない。知れば、日本の人々も変物はずで(※)
- (約1925年治安維持法 制定+言論弹胚合法化/1930年 ラジオで軍の錯毀損」移ごとを禁止

1932年3月 血盟团科、三井財閥トップ、団琢磨、リットンに会が翌日に殺される。

1932年5月15日 「満州国主認知」、として大養教首相が暗殺される(五一五軒)

【写真】 【写真】 団琢磨 犬養毅

A (予想される解答例)

- ・建前上、路線爆破=中国側の行動とする。ただ、日本の自衛権は認めない。
- ・満州国は自発的な国ではないので認めない。でも、自治ならいいのでは。
- ・日本の満州権益は守られなければいけないし、中国のボイコットなどもだめだ。
- ・日本と中国は話し合って欲しい。日本には、もっと大きな視野で物事を見て欲しい。
- ・本音で言えば、日本は怪しいが、日本は交渉のテーブルにのせるべき。
- ・国民が軍を支持するのは、国民が何も知らないから。真実を知らせるべきだ。 など

※日本を非難するものばかりではなく、日本を擁護する提案も多かったことに注目したい。

(ポイント)・連盟の案の中で、「日本を拝比判話もの」と「日本を擁護話もの」を分けて、考え、どのおな内容が考えらう

· リットンの本者から、リットンは日本かどのような行動をとることを期待しただろうろし、

【写真】 リットン

点満州事度; エキスパート課題 C

租 番氏名

日本政府は、満州問題」をどのおうにとらえていたか

(4) 満州撃の前、政府が考えなたことは何だったか、



日本が満州に特別な権利を持っているということには、各国から異論がある。各国が認めた証拠はなく、現に任じれては、国会議員が、「任じスは日本が満州において何ら特別な権利」など持ていないと教る」と、国会で答印はほどで、(1928年7月の文書で)

一→ このような感覚は、当時政府内で広く共有されていた。南満州鉄道と遼東半島を展えて、日本が広く満州)で特権を有おりという既成事実をつくるために、石炭、鉄鉱、電気業など、国、軍、大企業かい、協力して積極的に投資し、満州での治動を活性化した。その額、14億円以上!(1926年までで)

A. (予想される解答例)

- ・政府は、満州での日本の立場は、決して強くないと考えていた。
- ・満州権益をより確かにするため、積極的にお金を出していく必要がある。 など

((ボタント)・「満州」について、国際社会の考えを、政府はどう分析していたが ・1件億円もの投資を満州に移るとで、政府は国際社会に何をアピールしたかったが、)

(6) 満州事変直後、政府が考えていたことは何だったか?

関東軍の行動を政府として認めるかけにはいかない。英米が黙っていないでうう しかし、軍の行動を強引に止めいば、テロヤクーデターがおこるかも…。軍の行動 が結果ホーライになるかもしいないし、どのようにでも動けるよう、国民には事実を黙っておこう。 【写真】 若槻礼次郎

A.(予想される解答例)

・政府は英米の非難と軍のクーデターの両方を恐れた。結果的に良い方に転べるようにしていた。 ((スタント)、政府がおそれなスニセのは何だったが、そに、「結果オーライ」とは何か。)

(C) りょりつ調査団の「満川固は認められない」とは、勧告」をうけた政府の反応は、どのようなものだっためて

【写真】 松岡洋右 物車は8分目でこらえた方がよれである。 満州国」を完全に認めせることに こだりれば、日本の国際連盟 脱退という事態になりかゆません。 ここは連盟とな協称べきでは、、 (1933年1月30日) 日露戦争の場構と教れば日本は強く「満州国王主張するへし。あくまで、勧告」なのだから、連盟脱退ニまでは至らない。連盟を介えず中国と直接交渉した方がよい。(松岡の報告をうけて)

【写真】 内田康哉

しかし、1933年1月 陸軍による熱気省侵攻作戦(満州国の西)が天皇、総理大臣などに認めらいる 1933年2月 陸軍、熱刃省に軍を侵攻させる。

【写真】 斎藤実 熱河侵攻はとりやめるべきです!! 今連盟が日本に最終寒を 提示している最中、日本が新たに軍事行動をおこせば、連盟 規約違反になり、連盟除名・経済制裁の対象になり封!! (1933年2月8日、天皇に対して大慌てな) しかし、一度認め下ものを取り泊す ことに、陸軍は徒子のか、、 陸軍が怒れば、また テロ事件が おこるのでは、、、

... 1935年3月 日本. 連盟を脱退

(ダ階名、、連盟におず)教では最も重いもの)

A.(予想される解答例)

- ・松岡は事態に対し悲観的、内田は楽観的だった。内田は連盟を信用していない。
- ・連盟規約に反してしまったことに気付いても、結局軍が怖くて後に引けなく成ってしまった。

(ボダント)・連盟の勧告をうけた政府に、「脱退やひなし」という発想はあったの人

・国連の判断を待たずに、脱退を決めた政府は、何とがそれていたのか

4 評価問題に対する予想される解答例

問 なぜ満州事変は引き起こされたのか。そして日本はなぜ連盟を脱退したのか。

① Bとする解答例

日本は、資源の多い満州を守るために事変が中国のしわざということにし、国民に信じ込ませ、 軍に加勢するように求めた。だが、リットンが日本の行動と満州国を認めなかった。満州をめぐ る日本と中国の戦争をおそれ、日本が満州に持っている権益を保障し、中国にはボイコットを禁 止し、日本と中国に戦争ではなく話し合いによる和解を求めた。

満州事変前は、日本が満州へ多額のお金を投資し、経済ブロックを回そうとしていた。満州国は日本のものだと世界にアピールしていた。リットンから勧告を受けた政府は対策をしていたが陸軍による熱河省侵攻作戦を天皇と総理大臣が認めてしまい、熱河省に侵攻した。日本の行動を連盟は認めず、連盟で一番重い処分である除名となり、日本は強制的に国連を脱退させられた。

この解答に対する添削例

- ・「国際社会」の視点については、調査団が日本に期待したことも含め、よく書けている。
- ・1~2 行目「軍に手を貸してほしい~国民に信じ込ませ」…なぜ国民は軍を信じ、軍を支持したのか。 →当時の経済状況、政府の対応、軍の広報活動や情報操作などの視点を取り入れたい。
- ・5~6 行目「満州国は~アピールしていた」→しかし世界はそう思っていなかった。
- ・6~7行目「政府は対策をしていた」→書くのであれば、具体的に。できなければ書かない。
- ・8 行目「連盟で一番~脱退させられた。」…×除名を下され、×強制的に脱退させられた。
 - →政府が国際社会と国民(軍がバック)の板挟みになりながら,何を最も恐れ,最後は何を避ける 形で自ら連盟脱退の道を選んだのか指摘したい。

※「国民」の視点は不十分だが取り入れているので○。「政府」の部分で間違いがあり、評価は「B」。

② Aとする解答例

軍は国民に対し、苦労して犠牲も出して手に入れた満州の権益を、中国に勝手なことをされて 奪われてしまうと訴えた。満州を日本のものにすれば経済も安定し、総力戦になってもアメリカ に並ぶ力が手に入るのに、悪い中国が日本人を追い出そうとしていると、誇張してあおった。国 民は軍を信じ、軍を支持することで、軍が満州で動きやすい状況ができ、満州事変は起こされた。 これに対し国連は、満州国は行き過ぎで認めないとしながら、中国と日本の戦争を避けようと 互いの妥協点となる提案をした。また、日本の国民が真実を知らず、判断がゆがめられていると し、真実を伝えようとした。国連も政府も日本の国連脱退には消極的だった。しかし、軍が新た に侵攻したことについて、政府は軍と国民の意見に背くと、軍のテロが起こると考え、国連を脱 退せざるをえなかった。

この解答に対する添削例

- ・「真実を知らない国民, それを伝えようとする国際社会, テロを恐れる政府」という構図が分かりや すく書けている。
- ・満州事変,満州国建国に対しても,軍は積極的に認めないものの,軍を止められなかったことも指摘できるとよい。
- ・国民が軍を支持した背景として、授業でも扱った「不十分な農業政策、政府への不信」を指摘できるとよい。

※「真実を知らない国民、それを伝えようとする国際社会、テロを恐れる政府」という構図が良い →評価は「A」。

5 参考文献

- ・『図説 日本史通覧』(帝国書院、初版 2014年)
- ・『わたしたちの歴史 日本から世界へ』(山川出版社,2021年)
- ・『それでも日本人は「戦争」を選んだ』(加藤陽子,朝日出版社,2009年)
- ・『シリーズ日本近現代史⑤ 満州事変から日中戦争へ』(加藤陽子,岩波新書,2007年)
- ・『世界史との対話(下) 70 時間の歴史批評』(小川幸司, 地歴社, 2012年)